

始業式の「校長講話」です。－「論理力」の育成－

2017年4月6日（木）、平成29年度の始業式がありました。私が話した内容の要旨は以下の通りです。「並木中等教育学校10周年」の記念すべき年の「幕開け」です！

◆4月6日の始業式での「校長講話」の要旨◆ テーマ：「論理力」の育成

- 皆さん、こんにちは。校長の中島博司です。今年度も私が校長をつとめますので、よろしくお願いします。今日のお話の時間は、約9分間です。
- まず、先月卒業した4回生の先輩たちの大学合格実績についてお知らせします。卒業した158名の中で、半数にあたる79名が国公立大学に合格しました。私立大学へはのべ290名の合格者が出ました。すでに、知っている人も多いと思いますが、日本最難関の東京大学に7名が合格しました。全員現役です。同じく、最難関の京都大学に5名が合格しました。現役4名、過年度卒1名です。本校の初代校長である大山清先生が掲げていらっしゃった、東大・京大合わせて2ケタという目標が達成されたこととなります。
- 東大・京大の現役合格者が合計11名となりましたが、北関東以北で現役で合計10名以上の合格者を出したのは4校だけです。札幌南高、水戸一高、土浦一高、そして並木中等教育学校です。また、日本最難関学部である東京大学理科Ⅲ類（医学部）に1名が合格しました。北関東以北で合格したのは、本校生だけです。全国の公立校の中で現役で東大理三に合格したのは、3名だけでした。その3名の在籍校は、東京都立小石川中等教育学校と三重県立四日市高校と本校です。その他にも、難関国立大学や医学部医学科に多くの合格者がでました。
- これらの高い進学実績は、6年間の一貫教育によって、4回生の皆さんが「真の学力」を身につけた結果であると感じています。また、本校で推進している「アクティブ・ラーニング」によって、4回生が「アクティブラーナー」に成長したことも要因の一つであると考えています。本校では「卒業生が決めた漢字1文字」というのがあります。1階のパン屋さんの近くに掲げているものです。4回生は「躍」という字を選びました。文字通り「飛躍」「躍進」の年となりました。
- 話はかわりますが、本校では2012年から5年間のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けていました。昨年度にその5年間の指定が終了したので、文部科学省にSSH2期目5年間の申請をしていました。そして、その結果が3月末にできました。合格でした。先生方と皆さんの努力と実績、更にはこれから進める企画が認められて採用となりました。本当によかったです。
- さて、今日は1つだけキーワードを伝えます。それは「論理力」ということばです。皆さんにとって「アクティブ・ラーニング」はもう普通になっていると思います。私は、2015年8月から「アクティブ・ラーニング」の目的は「アクティブラーナー（能動的学習者）」を育てることだと考えています。そして、2015年を「アクティブ・ラーニング元年」、2016年を「アクティブ・ラーニング・セカンドステージ」と名付け、「AL指数」や「R80」を考案し全国に発信してきました。明けて2017年は「アクティブ・ラーニング・サードステージ」と名付けました。
- 「サードステージ」でも、最終的な目的が「アクティブラーナーの育成」であることは変わりませんが、そこにいたる具体的な目標を「論理力の育成」としました。「論理力」とは「相手の主張の筋道を読み解き、自分の考えを整理して伝える力」です。これは、出口汪（でぐちひろし）さんの定義です。AI（人工知能）が発達する近未来にあって、この「論理力」を身につけた若者が、グローバルリーダーになっていくと信じています。これからはじまる、SSH2期目の目玉として、各教科で「論理力の育成」を推進していきますので、皆さんは、「アクティブラーナー」としてしっかり取り組んでください。これは、全国に先駆けた未来志向の取組となります。
- 最後に、皆さんに1つお願いがあります。現在本校は大変注目される学校となっており、昨年度は、国内外から27の訪問がありました。最初にお話しした進学実績は、開校9年目の実績としては、驚異的な数字になりますので、おそらく、今年度は更に多くの学校訪問があると思います。授業を見せてもらう機会も多くなると思いますが、皆さんは、いつも通り「アクティブラーナー」として、積極的に生き生きと授業に取り組んでください。よろしくお願いします。
- それでは、明日の入学式で10回生160名を迎え、今年度、本校はいよいよ10周年の記念の年となります。みんなで、いい学校をつくっていきましょう。以上です。ありがとうございました。